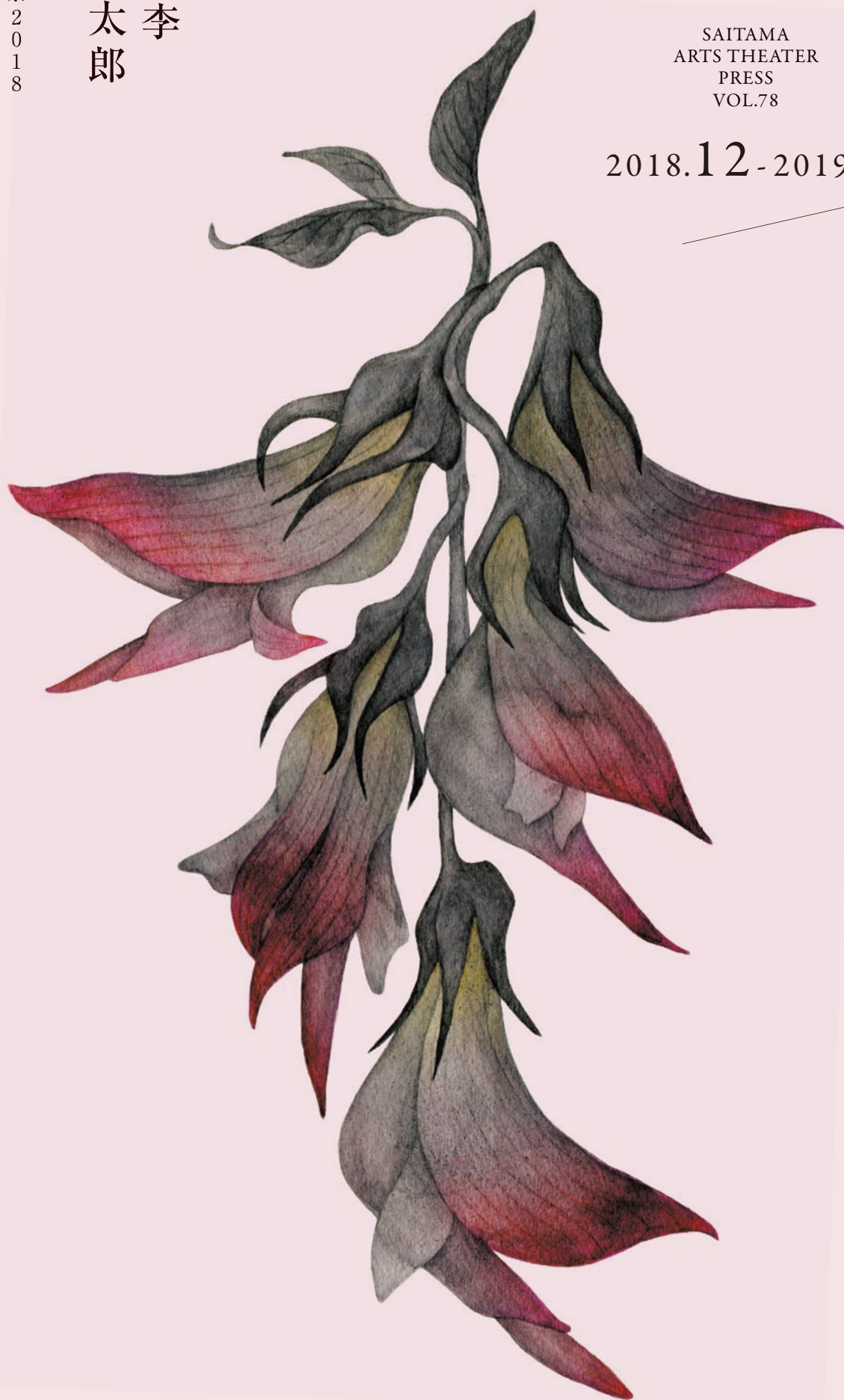


埼玉アートシアター通信

SAITAMA
ARTS THEATER
PRESS
VOL.78

2018.12-2019.1



ヘンリー五世

松坂桃李

吉田鋼太郎

木場勝己

世界ゴールド祭2018

近藤良平×山口夏絵

レミ・ジュニエ



Photo©HIRO KIMURA

CONTENTS

- 4 PLAY > 彩の国シェイクスピア・シリーズ 第34弾
『ヘンリー五世』
- 6 FESTIVAL > 「世界ゴールド祭2018」レポート
- 9 DANCE > 埼玉県舞踊協会
『ダンスセッション2019』
- 10 DANCE > 子どもと大人のためのダンス
「日本昔ばなしのダンス」
- 12 MUSIC > ピアノ・エトワール・シリーズVol.36
レミ・ジュニエ ピアノ・リサイタル
- 14 MUSIC > アリーナ・イブラギモヴァ&セドリック・ティベルギアン
デュオ・リサイタル
- 16 MUSIC > 彩の国さいたま芸術劇場シリーズ企画「次代へ伝えたい名曲」第14回
清水和音 ピアノ・リサイタル
- 18 REVIEW
- 20 イベントカレンダー／チケットインフォメーション／彩の国シネマスタジオ
- 23 INFORMATION
- 24 COLUMN > 林家彦いちの『一歩外へ』

編集◎川添史子、榎原律子 表紙画◎波多野光 デザイン◎GOAT

©公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団 Published on 1. Dec. 2018 All Rights Reserved by Saitama Arts Foundation
※掲載情報は、2018年11月15日現在のもので、公演は追加および一部変更される場合がありますので、ご了承ください。



Tribute to 蜷川幸雄

5

木場勝己

蜷川さんの前では
いつまでも
小僧感覚でした



きば・かつみ

櫻社を経て、斜光社、秘法零番館を結成。その後、tpi、こまつ座、蜷川作品などに出演し、映画・ドラマなどでも活躍。現在『民衆の敵』に出演中。2019年『海辺のカフカ』再演に出演予定。

取材・文●尾上そら（ライター）

翻訳、和物、ミュージカル。古典から現代劇まで縦横無尽に舞台に立つ俳優・木場勝己さんは、俳優人生の初期に蜷川演出を受け、後期の蜷川作品群でも活躍するという稀有な経験の持ち主だ。

「蜷川さんが、劇作家の清水邦夫さんらと旗揚げした櫻社の門を叩いたのは22歳、駆け出しもいいところ。当時30代後半の蜷川さんはとても大人の、仰ぎ見る存在でした。しかも“唐十郎戯曲がやれる”と噂を聞いて入った櫻社で、いきなり唐さん書き下ろしの『盲導犬』（1973年）に失踪した先輩の代役で出ること。1週間ほどの稽古で舞台に立つという、結構な洗礼を受けました。その時の“盲導犬学校の先生／男”役を、40年後に同じ蜷川さん演出で演じたのも面白い経験でしたね」

だが1974年、蜷川さんの商業演劇進出を劇団員たちは“裏切り”と糾弾し櫻社は解散してしまう。

「再び蜷川さんと仕事をしたのは解散から21年後。再会後のほうが数多く仕事を一緒にしたけれど、実はじっくり語り合うようなことは稽古でもそれ以外でもなかった。ダメ出しすらされないんですよ、怒られれば議論に持ち込むタイプなのに（笑）。話せばきっと櫻社時代に吐き出しきれなかった、互いの“過ち”を開示せざるを得なかった。それはあまりに大変だから、言葉ではなく芝居をやり切ることが僕にできる精一杯のアピールだったし、蜷川さんもそ

れを受け入れてくれていたのかも知れないですね。それに二人とも普段は結構シャイで、恥ずかしいことは避けていたから（笑）」

ト書きにない場面も退場せず舞台上に居続ける、演出で指示された位置で演技をしないなど、盛んに“仕掛ける”木場さんを、実は蜷川さんは楽しんでたのではないか、と思えて来る。

「俳優が自分で考えた芝居を自由にできる、存分に暴れられるのが僕にとっての蜷川作品。全員ビシッと蜷川さんに従うのが当然の稽古場で、型破りをしてそれが認められたなら、他の俳優さんたちももっと自由にやれるのではと思ったりもしたけれど、皆さんには迷惑としか思われなかったかなあ……。年を重ね、見た目が太して変わらなくなってからも櫻社時代の、大人に反発したり悪戯を仕掛けたりする小僧のような感覚が、蜷川さんに対してはずっと抜けなかったのかもしれない。互いの傷や過ちには触れないようにしながら、ね」

「2014年、さいたまゴールド・シアターで上演した『鴉よ、おれたちは弾丸をこめる』が、現代人劇場での初演より時代を映す生々しさがとても良くて。楽屋で蜷川さんに“才能あるんじゃないですか！”って言ったら頭をはたかれた」と笑いながら言う木場さんの後ろに、イキの良過ぎる後輩に目を細める嬉し気な蜷川さんが見えた気がした。



『海辺のカフカ』ナカタ役木場勝己 Photo◎渡部幸弘

『ヘンリー四世』に連なる世界が広がる

彩の国シェイクスピア・シリーズ 第34弾

ヘンリー五世

彩の国シェイクスピア・シリーズ最新作は、

2013年に上演された『ヘンリー四世』のその後を描く続編『ヘンリー五世』！

主演は『ヘンリー四世』でハル王子を演じた松坂桃李。

演出は、芸術監督に就任し、見事に『アテネのタイモン』を成功に導いた吉田鋼太郎だ。

主演俳優と演出家に、話題作の見どころを聞いた。

Photo ● HIRO KIMURA



松坂桃李

Tori Matsuzaka

2009年『侍戦隊シンケンジャー』で俳優デビュー。主な出演舞台に『ヘンリー4世』、『婚年』、『マクガワン・トリロジー』など。2017年に映画「彼女がその名を知らない鳥たち」にて第39回ヨコハマ映画祭助演男優賞を受賞。2018年に第10回TAMA映画祭最優秀男優賞を受賞。来年、映画「居眠り聲音」「蜜蜂と遠雷」の公開を控える。

松坂桃李

Interview

取材・文 ● 川添史子

今回の舞台の幕が開くころには、『ヘンリー四世』から5年以上の時間が経ったことになります。ハル王子からヘンリー五世への成長はもちろんですが、今回の舞台ではその年月分、僕自身の俳優としての成長も、お客様にお届けせねばと思っています。そして、一国一城の主になったヘンリー五世としての風格や貴禄、美しい佇まいを舞台上で表現できるよう、必死で稽古したいです。

『ヘンリー四世』の稽古初日に、蜷川さんがいきなり「よし！ 立ててやるか！」と仰った言葉は今でも忘れられません。初日はまず本読みだと思い込んでいたため、いついかなるときでも準備をしっかりして挑まないといけない！と勉強になりました。蜷川さんは非常に厳しい方だというイメージを持っていたので、「カンパニーの方たちもそういう雰囲気かな」と勝手に思っていました。しかしいざ稽古が始まってみると、皆さん器が大きく、優しい方たちばかり。発声の仕方など、一朝一夕では真似できない皆さんの技術力にも圧倒されました。特にハル王子の父・ヘンリー四世を演じられた木場勝己さんは、自分のセリフを言うタイミングを忘れてしまうほど、心地良いステキな声をされていて、強く印象に残っています。

今回楽しみにしていることは、まず演出家としての吉田鋼太郎さんにお会いすること。蜷川さんのように厳しいのか、仏のように優しいのか、またはエキセントリックなのか……。緊張もしますが、ワクワクしています。あと、また「ご飯に連れて行ってくださるのかな～」と期待してます(笑)。鋼太郎さんが意識的にされるかどうかは分かりませんが、作品のどこかに、長年のシリーズファンの方々が蜷川さんの“イズム”のようなものを感じ取る瞬間が、きっとあると思います。彩の国シェイクスピア・シリーズ最新作に、どうぞご期待ください。

吉田鋼太郎

Interview

取材・文 ● 上野紀子 (演劇ライター)



吉田鋼太郎

Kohtaloh Yoshida

俳優・演出家。1997年に劇団AUNを旗揚げ。蜷川幸雄演出のシェイクスピア劇に多数出演しており、「彩の国シェイクスピア・シリーズ」2代目芸術監督に就任。主な出演作に「ヘンリー四世」(芸術選奨文部科学大臣賞 演劇部門受賞)、『ムサシ』、『カッコーの巣の上で』、『海をゆく者』、『NINAGAWA・マクベス』、『アテネのタイモン』、『シラノ・ド・ベルジュラック』など。

STORY

父王の死とともに王位についたハル王子は、ついにフランスへの遠征を決意。劣勢だったアジンコートの戦いでも勝利し、講和条約に調印するとともに、フランス王の娘キャサリンとも結ばれる。英仏の和平が実現し、ヘンリーはフランス王位の継承者であることを宣言する。

2013年に上演された『ヘンリー四世』は、蜷川さんがとても気に入っていた舞台です。松坂桃李君が初めてシェイクスピアに挑戦した作品で、僕も肉襦袢を着けてフォルスタッフに扮し、とても楽しかった記憶があります。あの時の放蕩者ハル王子が、後に名君へと変貌を遂げて展開する物語、それが今回の『ヘンリー五世』。つまり『ヘンリー四世』の続編のような位置づけで、あの舞台の経験が今回の僕の演出において、非常に心の支えになっていますね。この二作のつながりは意識してつくっていきたいと思っています。松坂君も「『ヘンリー五世』をやるなら、僕がやりたい」と申し出てくれました。この間の彼の成長と、その意気込みをぜひ見せてもらおうと思っています。

本作は、イギリス国家の危機的状況のなか、国民の戦意高揚を目的に上演されたと言われる戦争劇ですが、そこに描かれるのは、やはり死ななければならないのは最前線で戦う庶民であり、悲しむのはその人たちの家族だという事実。戦争への非難、さらに現代に重なる構図も感じられます。登場人物が実に多彩で、次から次へといろんな人物が入れ替わり立ち替わり現れる。ほんの一瞬出てそれだけ、といった役柄もあって、俳優への負担が非常に大きい芝居でもあります。俳優陣には彩の国シェイクスピア・シリーズに初参加の人も意図的に集め、芸達者を揃えました。(『ヴェローナの二紳士』に出演した)溝端淳平君も松坂君と同様、シェイクスピアに取り憑かれた一人です。今回はきっちりとセリフをしゃべるという課題に全力で取り組んでもらいたい。横田栄司君にとっては今回の役柄はきっと簡単にやってしまえるでしょう。だからこそ、その上をいく頑張りを期待したい。中河内雅貴君は非常に生きがよく、猥雑なエネルギーを持った役者です。ピストルという大役を任せて、シェイクスピアの沼にどっぷりと引き込みたい。河内大和君は的確な役作りのできる、とにかく巧い役者です。この機会にもっと世間に彼の存在を認知させたいですね。

そして今回、僕はコーラスという説明役を演じます。淡々と進みがちな物語のアクセントとして登場する、場の雰囲気を変える役割です。観客とのやりとりが重要なので、ある程度熟練した俳優がやらなければいけない役なんですね。僕は25歳の時、イギリスでケネス・ブラナーの『ヘンリー五世』を観たんですが、一番印象に残っていたのはその説明役の俳優さんでした。もう圧巻の存在感で、すべてをさらっていった。だから僕も全部さらって行ってやろうと……というのは冗談です(笑)。でも単なる説明役じゃない、『ヘンリー四世』からの流れを汲む工夫を施しています。そこはきっとお楽しみいただけたらと思いますので、ぜひご期待いただきたいと思います。

2019年 2.11(月・祝) 18:30 追加公演決定！

追加公演チケット発売日 一般 12.16(日) メンバーズ 12.15(土)

彩の国シェイクスピア・シリーズ 第34弾

『ヘンリー五世』

2019年 2.8(金)～24(日)〈全20回〉 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

[作] W.シェイクスピア [翻訳] 松岡和子

[演出] 吉田鋼太郎(彩の国シェイクスピア・シリーズ芸術監督)

[出演] 松坂桃李

吉田鋼太郎 溝端淳平 横田栄司 中河内雅貴 河内大和 ほか

チケット(税込) 一般 S席9,500円 A席7,500円 B席5,500円/U-25*(B席対象)2,000円
メンバーズ S席8,600円 A席6,800円 B席5,000円

*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。



○＝追加公演 ●＝さいたまアーツシアター・ライヴ!! 開催日 ★＝映像収録のため場内にカメラを設置します

※関連プログラム(要事前申込)あり。📄 詳細はP.23

※2019年2月11日(月・祝)18:30の回追加公演決定。📄 詳細はP.23

※当日券あり。詳細は後日財団HPにてお知らせいたします。



「世界ゴールド祭2018」レポート

取材・文 ● 川添史子 Photo ● 宮川舞子

国内初、エネルギーな高齢者の祭典！

今秋、9月22日から10月8日の約2週間、埼玉県と埼玉県芸術文化振興財団による高齢者舞台芸術の祭典「世界ゴールド祭2018」が、彩の国さいたま芸術劇場を主会場に開催された。国内初となる、世界から高齢者が集うユニークな祭典をレポートする。

まずは海外から、ヨーロッパを代表するダンス専門劇場、英国サドラーズ・ウェルズ劇場の高齢者ダンスカンパニー「カンパニー・オブ・エルダーズ」によるダンス公演『新作2018トリプルビル』が開幕を飾った。古典インド舞踊出身のシータ・パテル、カラフルで軽やかなエイドリアン・ハート、ヒップホップ界の世界的なダンサーのディクソン・ンビといった、作風の違う振付家による3作品を上演。ゆっくりと手を伸ばす、音楽に合わせて身体を揺らすなど、何気ない動きに年齢を重ねた身体の味わいが加わり、その一つひとつが美しく目を見張るものだった。

シンガポールからやって来たのは、地域生活に根ざし、高齢者の心情を映した演劇をつくる「グロウワーズ・ドラマ・グループ」による『カンボン・チュンブダ(チュンブダの村)』。舞台は60年代、新興住宅への移住を迫られる老人たちの村。古い生活様式の不便さ、それゆえの豊かさ、押し寄せる時代の波……消えてゆくコミュニティに暮らす高齢者を活写した、ユーモアと哀しさと温もりのある芝居であった。多民族国家シンガポールの特色を反映した多言語上演で、滅びつつある、中国の方言なども意識的に使用しているとか。

10年近い活動歴のある高齢者ダンスグループ、オーストラリアのタスマニアを拠点に活動する「マチュア・アーティスト・ダンス・エクスペリエンス」は、世界的に有名な振付家グレアム・マーフィーによる代表作『フロック(ドレス)』を上演。一人の老女性が思い出のドレスについて回想すると

いう構成で、人生の輝きや苦さを詩的な言葉とダンスで綴っていく。振付家と出演者が参加したアフタートークでは、認知症の祖父を持つという観客が「祖父の様子に悲しい気持ちになることもあるが、この作品を観ていると、歳をとることは自由なことだと思えた」と感謝を伝えた場面も印象的だった。

期間中には、国内外のアーティストが参加してのシンポジウム、ワークショップ、交流会なども開催。各国の先進的な取り組みに触れる貴重な機会となった。

「さいたまゴールド・シアター」の挑戦

「世界ゴールド祭2018」では、彩の国さいたま芸術劇場の高齢者演劇集団「さいたまゴールド・シアター」とのコラボレーションによる2つの作品も誕生した。



サドラーズ・ウェルズ劇場 カンパニー・オブ・エルダーズ『新作2018トリプルビル』



さいたまゴールド・シアター×デービッド・スレイター『BED』

グロウワーズ・ドラマ・グループ
『カンボン・チュンブダ(チュンブダの村)』

マチュア・アーティスト・ダンス・エクスペリエンス『フロック(ドレス)』



さいたまゴールド・シアター×菅原直樹
徘徊演劇『よみにひはくれない』浦和バージョン

まずは、ロンドン南東地域に根付いた活動を長年続けている芸術団体「エンレキー・アーツ」のアーティストック・ディレクター、デービッド・スレイターの演出作『BED』だ。与野本町と大宮の駅前に3台のベッドが突如出現。出演者は路上に並んだベッドに横たわる老人だ。戦争体験などを積極的に話す人、自分の世界に閉じこもって黙っている人、普通におしゃべりするけれど、ふと亡くなった夫の思い出に思考がとらわれて会話が続かない人——各々が違う背景を背負い、語るべきストーリーを持っている。話しかけたり、遠巻きに眺めたり、通りすがりの街の人たちの反応が高齢者への社会的な態度に重なって見えたりと、示唆的で奥深いアート作品だった。

観客が浦和の商店街を歩きながら物語を読み解いていく『よみにひはくれない』を演出したのは、俳優・介護福祉士の菅原直樹。登場人物は、挫折して20年ぶりに

故郷に帰ってきた若者と認知症の老人だ。実際の街の風景に二人の記憶が重なり、現在と過去、フィクションとノンフィクションの境目が曖昧になっていく“徘徊演劇”のゴールは、味のある古い薬局。老いた者が若い人の背中をさりげなく押す場に偶然居合わせたような、そのリアルさに胸を打たれた。

総勢738人による演劇作品

60歳以上を対象とした彩の国さいたま芸術劇場の芸術クラブ活動「ゴールド・アーツ・クラブ」による舞台も上演された。1月からワークショップを重ねてきたメンバーが、ノゾエ征爾(脚本・演出)指揮により、モリエールの戯曲『病は気から』を元にした作品に挑戦。総勢738人の出演者は月組と太陽組の2組に分かれ、各チームの個性が光る2バージョンが誕生した。

真っ赤な幕が開き、ものすごい人数の出演者によって舞台が埋め尽くされている冒頭から、観客は度肝を抜かれただろう。金、恋、名誉……さまざまな欲が織り込まれたセリフを老人たちが語ると、どこか生々しくエネルギーが満ちる。そんな欲望渦巻く人生も、大きなベッドをかたどった美術の上で紡がれると、「あらゆるものを手に入れても、どうせ人間はいつかベッドの上で死ぬ」というブラックユーモアにも感じられる。“愛と現実”、“生と死”を内包したパワフルな人生喜劇に、客席から喝采が送られた。

＊

元気に自己表現を楽しみ、人生を謳歌する老人たちの芸術に触れ、“老いのリハーサル”をさせてもらったような気分。「想像より、老いることは楽しいかも」なんて気持ちにさせられた、新しい感覚を知った数週間だった。

埼玉、全国、そして世界へ！

埼玉県舞踊協会 『ダンスセッション2019』

文 ● 高橋森彦 (舞踊評論家)

1967年に設立された埼玉県舞踊協会は埼玉県内のバレエ・モダンダンスの普及発展と会員舞踊家自身の研究向上、次代の舞踊家育成を目的とする。「ダンスセッション2019」はオーディションメンバーが出演する公演で、テロ・サーリネン(2014年)、瀬山亜津咲&ファビアン・プリオヴィル(2017年)、篠原聖一(2017年)ら著名かつ実力派の振付家を招いて協同作業を行ってきた。2年ぶりとなる「ダンスセッション2019」も充実の内容だ。

アレクサンドル・ミシューチン振付『フロラの目覚め』では、1894年にリッカルド・ドリゴ作曲、マリウス・プティパ/レフ・イワノフ振付により初演されたロシア・バレエの名品が今に蘇る。古代の神話に基づく明るく抒情的なバレエで、春の女神フロラと西風の神ゼフィールを中心

に神々たちとアンサンブルが、華やかな舞踊絵巻を繰り広げていく。ミシューチンは国内外で『クレオパトラ』、『アルレキナード』等のロシア・バレエの再現に力を注ぐだけに原典の香りを堪能させてくれるだろう。タイトル・ロールにはゲストを予定し、ゼフィールには端麗な踊りを持ち味とする浅田良和を迎える。

国内外で精力的に活躍する平山素子の新作『Three-in-one』にも注目したい。『Three-in-one』のタイトルからキリスト教の三位一体を想起するかもしれないが関係なく、平山によると「3つのものが1つになる」ということ、だという。平山は30名近い出演者に対し「3つの循環たとえば心・技・体、ヨガなら呼吸・体操・瞑想、バレエならアンデオール・エレヴァション・アプロムといった3つのモノのバランスと循環をそれぞれがどのように設定し、動きにルールとして融合させていくか。そしてそれを身体を通していかに舞踊表現に落とし込んでいくか。リサーチを繰り返すことからスタートさせたい」とコメント。そして「創造作業は常に0からスタートすべきだと考えていて、ゴールは設定しません。出演者とともにひたすら走り、進化し続けることを期待しています」と語る。精鋭たちとの協同作業が楽しみだ。

また同協会が主催する埼玉全国舞踊コンクールの創作部門第一位作品も上演され、藤井淳子(第50回)、ただ有里(第51回)の創作を披露する。埼玉から全国そして世界へ——。グローバルな視点からの創造・発信を続け、世界と交わる同協会の底力を示すのは間違いない。



瀬山亜津咲&ファビアン・プリオヴィル振付
『VENUS』(2017年) ©STAFF TESS

チケット販売中

埼玉県舞踊協会 『ダンスセッション2019』

2019年1.27(日)13:00/17:00
彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

[演目]
◎アレクサンドル・ミシューチン振付『フロラの目覚め』
◎平山素子振付『Three-in-one』(新作)
◎埼玉全国舞踊コンクール 創作部門 第一位作品
藤井淳子振付『elastic』
ただ有里振付『息もできない夜に蜷(と)ぶ』

チケット(税込) 全席自由 前売5,000円 当日5,500円

[主催] 埼玉県舞踊協会
[提携] 彩の国さいたま芸術劇場

【チケットの購入・お問合わせ】
埼玉県舞踊協会(事務局 月・木のみ)
TEL:048-882-7530 FAX:048-882-7549
MAIL:saitama-dance@blue.ocn.ne.jp
※彩の国さいたま芸術劇場SAFチケットセンター窓口でも取扱中。



篠原聖一振付『Channel』(2017年) ©STAFF TESS



アレクサンドル・ミシューチン
Photo © Clarissa Lapolla

平山素子 Photo © 白鳥真太郎

近藤良平

こんどう・りょうへい (振付家/ダンサー)

ペルー、チリ、アルゼンチン育ち。男性のみの学ランダンスカンパニー「コンドルズ」主宰。NHK『サラリーマンNEO』内「テレビサラリーマン体操」、『からだであそぼ』内「こんどうさんちのたいそう」などに振付出演。TBS『情熱大陸』出演。映画『ヤッターマン』振付担当。愛犬家。立教大学などで非常勤講師も務める。第4回朝日舞台芸術賞山修司賞、第67回芸術選奨文部科学大臣賞、第67回横浜文化賞受賞。

子どもと大人のためのダンス

「日本昔ばなしのダンス」

近藤良平『かさじぞう』『てんぐのかくれみの』
山口夏絵『つるのおんがえし』

昔ばなしをモチーフにした人気シリーズ最新作。今年はコンドルズ主宰の近藤良平『かさじぞう』『てんぐのかくれみの』、初登場・山口夏絵による『つるのおんがえし』が上演される。アイデア満載で楽しい舞台に、大人もちびっ子も大盛り上がるの予感……！

取材・文 ● 川添史子 Photo ● 宮川舞子

——今回の「日本昔ばなしのダンス」は、“アラフォーおんなダンス集団”と銘打ったダンスカンパニー「マグナム☆マダム」の主宰・山口夏絵さんが初演出・振付で参加されます。

近藤 山口さんのダンスにはコンドルズに近いものを感じるというか、山口夏絵という一つのジャンルみたいな感じなんです。だから「日本昔ばなしのダンス」で一体どんなものをつくってくれるのか、すごく楽しみです。

山口 ありがたいお言葉です……！

——近藤さんは『かさじぞう』と『てんぐのかくれみの』、山口さんは『つるのおんがえし』を選ばれましたね。

近藤 『かさじぞう』は、短いオープニングみたいな構成で考えています。『てんぐのかくれみの』は、天狗から手に入れた隠れみのを使うと透明人間になれちゃうという話。食事を食べると口だけが見える……なんてくだりがあって、これは興味深いぞと。「どう表現したらいいだろう！」ってワクワクするし、面白い挑戦になる予感がしました。子どもにとってもきっと、“隠れみの”はツッコミどころ満載のモチーフなんです。出演者が目の前にバッチリ見えてるのに「いないよ、見えないよ～！」みたいなお約束も使える。

山口 ドリフでいう「志村、うしろ、うし

子どもはみんな来るように！

ろ～！」みたいな感じですよ（笑）。

昔ばなしでファッションショー！？

近藤 どうして『つるのおんがえし』を選んだの？

山口 何をやるうか迷っていた時に、「山口の作風に合う」と別々のお二方から勧められ「これはやるべきかな」と即決しちゃいました。物語自体も記憶にありましたし、イメージもポンとわいて。

近藤 ヘー運命的だったんだね。誰と一緒にやるの？

山口 「マグナム☆マダム」でも一緒にやってくれている稲村はる、宮内愛、私の3人です。おじいさんとおばあさんと人間の姿を借りた鶴ではなく、青年と鶴の夫婦の物語にしようかと思っていますが、男役もうまい愛ちゃんが青年、器用なはるちゃんには村の人など複数の役をやってもらって、無駄に髪が長い私は……。

近藤 鶴だね！

山口 はい、意味もなく伸ばした髪の毛が生かせる時がやっときました（笑）。愛ちゃんは普段、教員として図工を教えているの

山口夏絵

やまぐち・なつえ (振付家/ダンサー)

東京・品川生まれ。19歳よりダンスを始め、コンテンポラリーダンスに没頭する。宮崎あおい主演ミュージカル『星の王子さま』、小林十市主演『モダンタイムス』、矢沢永吉、TUBEコンサート、びわ湖ホールプロデュースオペラ、NHK紅白歌合戦等にダンサーとして出演。2010年、ダンスカンパニー「マグナム☆マダム」結成。全作品の振付、演出を手掛ける。

チケット販売中

子どもと大人のためのダンス
『日本昔ばなしのダンス』

2019年 2.23(土)・24(日) 13:00/16:00
彩の国さいたま芸術劇場 大稽古場

〔演目〕

◎近藤良平振付『かさじぞう』『てんぐのかくれみの』
出演：鎌倉道彦、藤田善宏、山本光二郎、近藤良平
◎山口夏絵振付『つるのおんがえし』
出演：稲村はる、宮内 愛、山口夏絵

チケット(税込) 全席自由(整理番号付)
一般 大人(高校生以上)2,000円
子ども(3歳以上中学生以下)1,000円

——近藤さんはこのシリーズでさまざまな作品をつくっていらっしゃいますが、テーマやメッセージとの距離感は、作品ごとに違いますね。

近藤 シリーズの初期は「教訓や大事なことを伝えないといけない」なんて思ったけど、最近はそういったこだわりはなくなってきましたね。とにかく面白い題材であればいいのかなと。今回は、“日本昔ばなしのファッションショー”みたいな場面を入れるっていうアイデアも浮かんでるんだよね。「JIZOU～！」みたいなDJを入れたりして、地藏とか、天狗とか、昔ばなし的にはサイドキャラクターたちがキメながらキャットウォークしたら面白いかなって。昔話の登場人物って、誰でも一目見たら分かるようなキャラクターばかりでしょ。山口チームにも協力してもらおうかな。

山口 ぜひ参加したいです！

近藤 まぁ今回も、子どもはみんな来ないといけない舞台になるでしょうね～。

山口 埼玉の子どもはみんな来ること！

近藤 しかも「私は観に行く」と周囲の友達に宣言して観に来ること！（笑）

で手先がとても器用なんですよ。「影絵なんかも入れる？」なんて相談しています。

近藤 影絵なら、ふすまの向こうで反物を織ってる鶴をすごく細～く表現できるんじゃない？ 顔の部分だけ実寸で、体だけ「ほせー！」みたいな、色々と遊べそう。

山口 アハハハ、それいいですね！『つるのおんがえし』って、最後がちっと悲しい終わり方じゃないですか。見てはいけないものを覗いてしまったことに対してバチが当たるイメージというか。でも改めて本を読んでみたら、もっと別の表現ができるかもしれないと思って。メッセージを伝えたい訳でもないの、何か面白い終わらせ方ができないかなと思っています。



ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.36

レミ・ジュニエ Interview

共感する4作品で伝える等身大の自分

将来のピアノ界を担うスター(エトワール)となる新進ピアニストが、意欲的なプログラムにチャレンジする「ピアノ・エトワール・シリーズ」に、2013年エリザベート王妃国際コンクールに20歳で第2位に輝いたレミ・ジュニエが登場。ロシア音楽を得意とし、ベートーヴェン作品の録音プロジェクトも進行中のフランス人ピアニストが組んだプログラムは、彼が最も得意とするレパートリーの数々。20代の今ならではのジュニエの感性を堪能したい。

取材・文 ● 柴田克彦 (音楽ライター) Photo ● 宮川舞子

レミ・ジュニエ (ピアノ)
Rémi Geniet

パリ国立音楽院でエンゲラーに学び、エコール・ノルマル音楽院へ進んだ後、ボンの国際ベートーヴェン・ピアノ・コンクールで史上最年少入賞、2013年のエリザベート王妃国際コンクールでは第2位となった。これまで、オールソップ、クリヴィス、デ・ワールト、トレヴィーノらの指揮のもと、サンクトペテルブルク・フィル、シンフォニア・ヴァルソヴィア、ベルギー国立管、KBS響などと共演し、ラ・ロック・ダンテロン国際ピアノ音楽祭、モントリオール・バッハ・フェスティバル、またフランスの主要ホールなどで演奏。日本では広島響(レヴィ指揮)や、関西フィル(デュメイ指揮)と共演している。2015年には、デビュー・アルバムとしてオール・バッハのCDを発売。その年の優れたCDに贈られるディアパゾン・ドール・オブ・ザ・イヤー賞に輝いた。2017年5月にはベートーヴェン・アルバムをリリースした。



Rémi Geniet

前半は録音で掘り下げた作曲家
後半は舞曲のプログラム

今シーズンの「ピアノ・エトワール・シリーズ」の最後を飾るレミ・ジュニエは、フランス語の「星」を意味する当シリーズに相応しいフランスの俊才。1992年生まれの彼は、2011年にボンの国際ベートーヴェン・ピアノ・コンクールで史上最年少入賞、2013年のエリザベート王妃国際コンクールで第2位受賞を果たした後、世界各地で活躍し、ラ・フォル・ジュルネ音楽祭でもおなじみの存在となっている。

J. S. バッハ、ベートーヴェン、ショパン、ストラヴィンスキーの作品が並ぶ今回のプログラムは、バロックから20世紀まで時代を順に追っていく内容。スタイルに合わせて巧みに弾き分ける鋭敏な音楽性がいかに発揮される。

「前半はCDに録音している作曲家。バッハの作品はそこから選び、ベートーヴェンは新たにステージで演奏する《熱情》ソナタを入れました。そして後半はショパンとストラヴィンスキーの“舞曲”プログラムです。バランスを考えて、前後半ともに短い曲と長い曲を組み合わせてもいます」

バッハのカプリッチョ「最愛の兄の旅立ちに寄せて」での開始は若干珍しい。

「最初のCDを録音する際に、弾きたい曲を選んで良いと言われて、先生と一緒に勉強したこの曲を入れました。20歳くらいの若い時に書かれた曲である点が、年齢の近い今の私に合っていると思います。しかも凄く好きな曲なのにあまり演奏されないの、今回また取り上げることにしました。バロック時代の作品をピアノで弾くのはいろいろと難しい面もあるのですが、試行錯誤しながらチャレンジしていますし、



チケット販売中

ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.36
レミ・ジュニエ ピアノ・リサイタル

2019年 1.12(土) 15:00 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

〔曲目〕
J. S. バッハ:カプリッチョ 変ロ長調「最愛の兄の旅立ちに寄せて」 BWV 992
ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ 第23番 ヘ短調 作品57「熱情」
ショパン:4つのマズルカ 作品17
ストラヴィンスキー:「ペトルーシュカ」からの3楽章

チケット(税込) 一般 正面席3,500円 バルコニー席2,500円
U-25*(バルコニー席対象)1,000円 メンバーズ 正面席3,200円

*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。

普段よく聴いているチェンバロの演奏から
影響を受けることもあります」作品とじっくり向き合い
表情の変化を自分でも味わいたい

2曲目、ベートーヴェンの《熱情》は、CDに録音した《月光》の次なるステップだという。

「子どもの時からベートーヴェンが好きで、8歳から《月光》ソナタ、10歳頃から《熱情》ソナタを勉強しました。その年代ではもっと短い曲を与えられることが多いのですが、私は長い曲で様々な要素を学ぶ方が興味深いし、良いことではないかと考えたのです。それに《熱情》はケンプやアラウの録音にも魅了されました。その後もベートーヴェンはたくさん勉強し、《月光》のほかに第2、9、31番のソナタをCDに録音しました。そして今年の9月からは《熱情》を入れたプログラムを組んでいます」

《熱情》は激情的な難曲だが、ジュニエのCDの《月光》ソナタの激烈な終楽章などを聴くと、今回の演奏が楽しみになってくる。

後半最初はショパンの《4つのマズルカ》作品17。ショパンがパリに移って間もない時期に書いた、味わい深い曲集だ。

「私はショパンのマズルカも大好きですが、全曲の演奏は考えていません。その中であって作品17はとりわけ好きな曲集。第4曲はアンコールでも弾いています」

最後はストラヴィンスキーの《「ペトルーシュカ」からの3楽章》。これも技巧的難曲だが、彼は「ラ・フォル・ジュルネ TOKYO 2018」でもプログラムに入れる(鮮やかな快演だった)など、演奏に力を注いでいる。

「今年2月にナントのラ・フォル・ジュルネで弾いて、1年間はこれを弾き続けていこうと思いました。そうすると曲が成熟して表情がいろいろと変わってきます。その変化を表現し、それを自分でも味わいたいと考えています」

今回の演奏はほぼ1年を経た時期ゆえに、“成熟”した形が示されることになる。

ちなみに彼がパリ国立音楽院で学んだブリジット・エンゲラーは、モスクワ音楽院でスタニスラフ・ネイガウスに師事し、ジュニエはその後ドイツでロシア人教師に学んでもいるので、ロシア音楽は身近な存在である。

若きスター・ピアニストは
趣味も多彩

ところで彼は5回のラ・フォル・ジュルネを含めて6回来日しており、日本各地を回るだけでなく、京都近郊で短期のホームステイをしたこともあるという。

「日本は非常に綺麗ですね。パリに比べてもそうです。いろいろな計画がきちんと決められていますし、皆さんとても感じが良くて、心地よく過ごさせていただいています。それに自然が美しい。宮島や京都の早朝の山の情景は素晴らしかったですね」

さらにはオフステージの趣味も多彩だ。

「ヨットが好きで、地中海などをセーリングします。スキーや水泳、太極拳などのスポーツもしますし、映画も観ます。科学も好きですね。でもピアノに触れる時間が多く必要ですから、他のことはなかなかできません」

本公演では、透明でクリアな音色と正確なテクニック、洗練された音楽性をもった逸材の“多感な今の姿”を、大いに堪能したい。

幅広いスタイルに触れ、確立した、イブラギモヴァ流スタイル

アリーナ・イブラギモヴァは、真の意味でボーダーレスの現代社会を象徴するヴァイオリニストといえるのではないだろうか。

ロシア生まれ、父親はコントラバス奏者、母はヴァイオリン教師という音楽一家に育ち、4歳でヴァイオリンを始めたという。5歳よりモスクワのグネーシン音楽学校に入学、いわゆるロシア・メソッドでヴァイオリンを学び始めたが、彼女が10歳の時、父親がロンドン交響楽団のコントラバスの首席奏者として招かれ、英国へ移住。きっと、幼少よりとても多感で意志の強い性格だったと思うが、おそらくその時期に渡英して、より広い演奏のスタイルに接していなかったならば、今の彼女は存在しないのではないかと想像する。

英国移住後は、名門ユーディ・メニューイン音楽学校で同じくロシア・メソッドのナタリア・ボヤルスカヤに師事したが、やがて同メソッドに飽き足らなくなり、学内演奏会でバッハの無伴奏作品をノン・ヴィブラートで弾いて先生たちから冷ややかに見られたという。今ほどモダン奏者の間でピリオド奏法が一般的になる前の話だ。

そうした中で、2000年からはドイツで気鋭のヴァイオリニスト、クリスティアン・テツラフにも師事。既存のメソッドにとらわれず自分のスタイルを確立するという点で、彼の自由かつ妥協のないアプローチからは多くを吸収したのではないだろうか。今のイブラギモヴァの演奏はその影響を超えているが、一音一音の意味を曲のコンテキストの中で掘り下げ、けっして情性で弾いたり、単にきれいに弾いたりしないという点ではテツラフと共通している。

モダン・ヴァイオリン奏者としてのデビュー後も、演奏活動と並行してロンドンの王立音楽大学 (Royal College of Music) でバロック・ヴァイオリンをエイドリアン・バターフィールドに師事、形だけのバロック奏法ではなく、しっかり基礎からピリオド奏法を学んだ。その音大時代に出会った仲間と結成したのが、ピリオド楽器の弦楽四重奏団、キアロスкуро・カルテットである。

言葉は必要ないティベルギアンとの音楽的対話

一方、フランス人ピアニストのセドリック・ティベルギアンと出

会ったのは、2005～07年に二人がそれぞれBBC ニュー・ジェネレーション・アーティストという若手演奏家育成プログラムに所属していた時に共演したのがきっかけ。たちまち意気投合し、コンビ歴は13年に及ぶ。ティベルギアン自身も典型的なフランス・ピアニストではなく、きわめて開かれた国際感覚を持ったヴィルトゥオーゾで



アリーナ・イブラギモヴァ (ヴァイオリン)
Alina Ibragimova

バロック音楽から委嘱新作までピリオド楽器とモダン楽器の両方で演奏するアリーナ・イブラギモヴァは、これまでに、ロンドン響、エイジ・オブ・エンライトメント管等と共演。最近の主な協奏曲の共演で、ベルナルド・ハイティンク指揮ロンドン響とモーツァルト第3番を演奏。室内楽でパートナーを組むセドリック・ティベルギアンとは、ウィグモア・ホール、モーツァルトウム、ムジークフェライン等で演奏。2016年、大英帝国勳章 MBE を授与される。

あり、丁々発止の音楽的対話によって刺激を与え合ってきた。以前イブラギモヴァに話を聞いた時には二人のコンビについて次のように語ってくれた。

「私たちはリハーサルで弾く時も、言葉で何かを相談することはありません。つねに、お互いの演奏へ反応する形で進み、すべてがフレ



セドリック・ティベルギアン (ピアノ)
Cédric Tiberghien

セドリック・ティベルギアンは、カーネギー・ホール、シャンゼリゼ劇場、モーツァルトウム等に登場。これまでにロンドン響、パリ管等と共演。2018年、ベルリン・フィル・デビュー、またクルト・マズア等世界的指揮者と共演。リサイタルでは、ウィグモア・ホールの名誉あるマスター・シリーズに出演。1998年、ロン＝ティボー国際コンクールで優勝、あわせて5つの特別賞受賞。アリーナ・イブラギモヴァとは定期的にパートナーを組んでいる。

キシブルで、何かを先に決めておくということもありません。もちろんそれは私たちが長いことデュオを組んでいて、お互いをよく知っているからできることです。こう弾けば、相手がどう出るかわかりますし、お互いを信頼しているので、何が起ころうとも大丈夫という安心感があります。それは私たちにとって重要なことです」

ベートーヴェンからケージまで
多様なアプローチを楽しむプログラム

このようにロシア、英国、ドイツ、フランスといったさまざまな音楽文化に触れながら確固とした自分のスタイルを確立してきたイブラギモヴァは、21世紀の音楽家として時代をリードしている。モダンとピリオドを自在に行き来する先輩奏者としてはイザベル・ファウストが挙げられるが、イブラギモヴァはファウストほどストイックではなく、より自由で柔軟性を持ち、時には生来の気の強さも覗かせる。

モダン楽器でのオーケストラのソリストとしてはモーツァルトから現代の作曲家まで (昨年のプロムスではノルウェーの作曲家ロルフ・ヴァーラインのヴァイオリン協奏曲を世界初演)、リサイタルではティベルギアンとともに主としてモーツァルト、ベートーヴェン、シューベルトのソナタの全曲演奏に取り組んできて、これまで日本でも演奏してきた。さらにピリオド楽器ではアカデミー・オブ・エンシェント・ミュージックやアルカンジェロ等の古楽グループとバロックや古典派のコンチェルトを弾き振りし、またキアロスкуро・カルテットではガット弦を使ったクラシカル・タイプの楽器で演奏している。

これまでイブラギモヴァとティベルギアンは、一人の作曲家またはひとつの時代に焦点を当てるプログラムが多かったが、今回、彩の国さいたま芸術劇場での演目は時代も作曲家も多岐にわたる。ベートーヴェンの比較的初期のヴァイオリン・ソナタ第3番、チェコの作曲家ヤナーチェクのヴァイオリン・ソナタ、シューマンのヴァイオリン・ソナタ第2番という本格ソナタ3曲の間に、ケージのアフォリズム風の小品集《6つのメロディ》が挟まれるという珍しい構成だ。従来とは一味違う意欲的なプログラムに期待したい。

アリーナ・イブラギモヴァ &
セドリック・ティベルギアン
デュオ・リサイタル

アリーナ・イブラギモヴァ——モダンとピリオドを自在に奏でる21世紀のヴァイオリニスト

今もっとも注目を集めるヴァイオリニストのひとり、アリーナ・イブラギモヴァが、10年以上デュオを組むピアノのセドリック・ティベルギアンとともに、彩の国さいたま芸術劇場にやってくる! 豊かな音楽性と圧倒的なテクニックを持つ彼女。その深く鋭い語り口を一度聴いたら、誰もがとりこになる。イブラギモヴァならではの個性と魅力あふれる音楽はどのようにして生まれたのか、そのヒミツをご紹介します。

文 ● 後藤菜穂子 (音楽ライター)



Photo © Sussie Ahlburg

チケット販売中

アリーナ・イブラギモヴァ&セドリック・ティベルギアン
デュオ・リサイタル

2019年 2.17 (日) 15:00 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
[出演] アリーナ・イブラギモヴァ (ヴァイオリン)、
セドリック・ティベルギアン (ピアノ)
[曲目] ベートーヴェン: ヴァイオリン・ソナタ 第3番 変ホ長調 作品12-3
ヤナーチェク: ヴァイオリン・ソナタ
ケージ: 6つのメロディ
シューマン: ヴァイオリン・ソナタ 第2番 二短調 作品121

チケット (税込) 一般 正面席 5,500円 バルコニー席 4,500円
U-25* (バルコニー席対象) 2,000円 / メンバーズ 正面席 5,000円

*U-25 チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。

清水和音
(ピアノ)

Kazune Shimizu

ジュネーヴ音楽院にて、ルイ・ヒルトブラン氏に師事。1981年、弱冠20歳で、パリのロン＝ティボー国際コンクール・ピアノ部門優勝、あわせてリサイタル賞を受賞した。これまでに、国内外の数々の著名オーケストラ・指揮者と共演し、広く活躍している。室内楽の分野でも活躍し、共演者から厚い信頼を得ている。これまでに多数のCDをリリース。ショパン、ベートーヴェン、ラフマニノフなど幅広いレパートリーを誇り、日本を代表するピアニストとして活躍中。

記憶に残る生き様

「次代へ伝えたい名曲」第14回

清水和音 ピアノ・リサイタル

日本のトップ・アーティストが「次の世代へ受け渡したい名曲」を選び、演奏するシリーズ「次代へ伝えたい名曲」。

第14回は、日本を代表するピアニスト清水和音が登場する。

プログラムは、彼がピアニスト人生を通して取り組み続けているベートーヴェン、リスト、シューマン、そして、清水の友人でもある尾高惇忠の作品だ。音楽に真摯に向き合う清水。その姿勢にはある決意がこめられていた。

文 ● 青澤隆明（音楽評論家） Photo ● Mana Miki

人類と共にある名曲 人の記憶に残る演奏

男として生まれたからには、人の記憶に残る仕事がしたい――。

清水和音はそう言って、口を結び、しっかりと目に力をこめた。いまから20年ほど前の冬のことで、彼もまだ30代の終わりだった。ベートーヴェンとラフマニノフを弾いたリサイタルの後の、賑やかなおしゃべりのさなか、清水和音はさりげなく、改めて決意を告げるように語った。

いつも記憶に残る男たちの、譜面に記憶された音楽を追い求めているのだから、それはごく自然な、当たりまえのことなのだろう。しかし、もしピアノを弾いていなかったとしても、彼は同じことを思ったのではないか。ピアノが先か、思いが先か、それはわからないが、音楽とともに生きる人生を歩むなかで、その確信がいやがうえにも強まってきたことはおそらくほんとうだ。

「次代へ伝えたい名曲」のシリーズに登場すると聞いて、私がまず思ったのはそのこ

チケット販売中

彩の国さいたま芸術劇場シリーズ企画 「次代へ伝えたい名曲」第14回 清水和音 ピアノ・リサイタル

2019年 **2.24(日)15:00** 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

[曲目]シューマン：こどもの情景 作品15

ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ 第30番 ホ長調 作品109

尾高惇忠：ピアノのためのバラード 第1番

リスト：ピアノ・ソナタ 口短調

チケット(税込) 一般 正面席4,000円 バルコニー席3,000円

U-25*(バルコニー席対象)1,500円 メンバーズ 正面席3,600円

*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。

とで、清水和音はいまも人の記憶に残る仕事に挑み続けている。ベートーヴェンも、シューマンもリストもみなそれを敢然と示したばかりか、200年以上が経った現在も、おそらくはずっと先までも、彼らの作品は人類とともにあるだろう。それはなにより、清水和音のようなピアニストが、相応しいかたちで創作の内実をしっかりと伝えるからだ。そして、上手下手はともかくとして、ピアノに触れる無数の人々の手のなかにいくらずつかでも棲むからである。

だからこそ、長年の聴き手として私が強く望むのは、そうしたかけがえのない名曲を、清水和音の演奏で、次代に伝えたい、ということなのである。なぜなら、それはしごくまっとうなことだから。まっとうというのは、できるかぎり作品に嘘を混ぜないで、まっすぐに内実を見据え、それを余計な修飾なしに音で表現するということである。それは実際にはとても難しい仕事で、そして際限がない。清水和音はそれを40年近くも、聴衆の目で続けてきたことになる。

ベートーヴェン、リスト、シューマンは彼の関心の中心的なレパートリーである。ベートーヴェンは32曲のピアノ・ソナタ全曲演奏会を1995年からの2年で敢行、その鮮やかな成果はライブ・レコーディングにも刻まれて、いまも私たちの手もとにある。リストの口短調ソナタは、演奏家としての本格的な活動を始める契機ともなったロン＝ティボー国際コンクールでも弾いたというから、20代のときから愛奏してきた

いわば勝負の曲でもある。シューマンについては愛するしかない、と清水和音はつねづね言うが、その愛情は奏者自身の人間的な成熟とともに、さらに慈しみをもって大切に温められてきたものに違いない。

さて、もう1曲は「バラード第1番」である。ふつうなら、ここにショパンがくるのが、清水和音のベスト・チョイスとして自然だろう。しかし、ここではリストの前に、尾高惇忠のバラード第1番が演奏される。これはきわめて異例のことだ。清水和音が現代曲に本格的に取り組むのは思いがけず、意外ですらある。

現代音楽なんて嫌だし、みんなから嫌われ放題で当然だ、とまで言い放つ清水和音である。そもそも十二音技法で調性を手放したこと自体が間違いで、転調をなくしたら音楽なんてなんにも面白くない、とも。そうして、彼というピアニストは自分の人生を大切な作品だけに傾けてきた。

よくよく聞けば、尾高さんとは30年来の友人で、いっしょに釣りにも行ったし、とにかく人間として大好きな人なのだと語る。しかし、友人だからといって、積極的に同時代の作品を採り上げたりなんてしない。特別な機会あつての挑戦である。彼のピアノ協奏曲を、尾高忠明の指揮で2年前に札幌と演奏したのが、現代の協奏曲を弾いた最初だった。ところが、これが楽しい経験だったというのだ。長年の経験上、いい演奏家はいい人間ばかりだから、いい作曲家だって作品と人物は一致しているはず――だからこれから弾いてみる、と清水和音は言っ

公演関連企画

清水和音ピアノ公開レッスン聴講生募集!

[日時]12.16(日)15:00～(18:00頃終了予定)

[会場]彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール ステージ上

[レッスン曲目]シューマン：《こどもの情景》より

グリーグ：《ピアノ協奏曲》より

ラヴェル：《鏡》《クーランの墓》より

[参加費]1,000円(当日、会場にてお支払いいただきます)※2/24の本公演チケットをお持ちの方は無料

[定員]50名(要事前申込・先着順)※申込方法等詳細は財団HP、または下記までお問合せください。

[お問合わせ]彩の国さいたま芸術劇場(音楽担当) TEL:048-858-5506

ていた。美しい音楽が響くだろう、と聴き手としては楽しみにするばかりだ。

実演の場をともに生きた聴衆のうちに ピアニストは生き続ける

作品は人々の記憶に残る。というより、未来の手に託されている。作曲という営為が、ベートーヴェンの堅い意志を通じて、当代だけでなく、過去から未来へと響く音楽の創造物と捉えられるようになって以降、ロマン派や近代の多くの天才たちが、この仕事に真剣に向き合ってきた。

けれども、演奏家というのはそうではない。レコーディングに記録を留めるとしても、それは演奏の全体ではなく、ごくかぎられた一部だ。演奏は第一に、人々が生きて出会う空間にしか起こらない。記憶というのは、まさにそこから刻まれる。作品が演奏されなければ音楽として生きられないように、演奏家とその演奏は聴かれなければ、人の記憶には入っていけない。

ピアニストが記憶に残るのは、なにより実演の場をともに生きた私たちのうちのなのである。そのさきは、ひとりひとりの記憶であり、それぞれの人生にもかかってくる。清水和音は長らく私の記憶に生きているし、ありがたいことにその記憶にはいつも近い続きがある。

春の訪れのなかで、尾高惇忠のバラード第1番もまた、くり返し愛奏される傑作とともに、新しい響きを聴き手の記憶に刻むことだろう。尾高さんのことが大好きだ、という友人の厚い手を通じて。



Photo©加藤英弘

MUSIC

埼玉会館ランチタイム・コンサート 第36回
NHK交響楽団メンバー&梯 剛之 (ピアノ)
 9.11(火) 埼玉会館 大ホール

お昼のひとつ、ウィーンにゆかりのあるモーツァルト、シューベルト、ショパン(彼もウィーンに滞在経験あり)という3人の作曲家の作品をN響メンバー4人とピアニスト梯剛之の演奏で楽しんだ。ウィーンに留学経験のあるヴァイオリン白井と、ウィーンに長年住んでいた梯のトークをはさみつつ、ピアノ四重奏曲、弦楽三重奏曲、ピアノ・ソロと多彩な楽器編成の曲を、サロンのような親密な空気を感じさせながら演奏。メインはシューベルトのピアノ五重奏曲《ます》から第1、4楽章。優美な弦楽器と絹のようになめらかなピアノの響きが見事にマッチした演奏で、アンコールは同曲の第5楽章のフィナーレが演奏された。



Photo©加藤英弘

MUSIC

NHK交響楽団
井上道義 (指揮) **辻 彩奈** (ヴァイオリン)
 10.6(土) 埼玉会館 大ホール

井上道義のプレトークから始まったN響演奏会。この日のコンサートマスター、ライナー・キュッヒルも参加して、2人の出会いやクライバーのエピソードなど興味深い話を演奏前に楽しんだ。雷鳴のように激しく始まった《ドン・ジョヴァンニ》序曲のあと、辻彩奈のソロによるモーツァルト《協奏曲第5番「トルコ風」》は転調ごとに変わる音の表情がみずみずしく、トルコ風の部分は鋭い音で対比を効かせた。ブラームス《交響曲第4番》はキュッヒルのリードと内声の充実した動きが織りなす濃厚な響きによる熱演。アンコールの《ピツィカート・ポルカ》では井上も演奏に参加したり芝居をしたりで、客席は笑顔に包まれた。



Photo©加藤英弘

MUSIC

ベルリン・フィル ブラス・トリオ
 9.30(日) 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

ベルリン・フィル首席トランペット奏者ガボール・タルケヴィ率いる世界最高峰オーケストラ・メンバーによる金管トリオ。抜群のテクニックと輝かしく豊かな音色がホールに広がった。金管三重奏に編曲されたバッハ《5つの小品》で軽やかに始まり、トロンボーンのイエスパー・ブスク・ソレンセンのたどたどしい(?)日本語での挨拶に会場は和んだ。三重奏以外にも、それぞれピアノ児嶋一江とのデュオで妙技を披露。ミッシェル《組曲》第1曲では、トランペットは舞台中央、ホルンは下手舞台袖、トロンボーンは上手客席で演奏し、音響的な仕掛けも面白かった。ターナー《バンデラ》まで全10曲。鮮やかな演奏で聴衆を魅了した。



Photo©横田敦史

MUSIC

ヴァレリー・アフアナシエフ ピアノ・リサイタル
 10.13(土) 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

鬼才ヴァレリー・アフアナシエフの約20年振りとなる彩の国でのリサイタル。ステージを一步一步踏みしめてピアノに向かい、奏でるその姿は、まさに孤高の芸術家。宙と対話するかのような長い休符、響きが消えるまで延ばし続ける和音、など彼だけが知る作品の形を包み隠さず語る、そんな演奏に客席は息を呑んで聴き入った。シューベルト《3つのピアノ曲(即興曲)》D 946は荒々しい響きで作品を切り刻むような辛口の演奏。ベートーヴェン「テンペスト」の第1楽章冒頭での異次元の響き、「熱情」では作品の厳しさをえぐり出す緊張感とその凄みに圧倒された。巨匠ならではの解釈と音が深く心に残るリサイタルだった。



Photo©Arnold Groeschel

DANCE

イスラエル・ガルバン
『LA EDAD DE OROー黄金時代』
 10.27(土)・28(日) 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

伝統的なスペイン舞踊をルーツとしながら、革新的な作品を次々と発表している舞踊家イスラエル・ガルバン。フラメンコの現在を切り拓く天才が、代表作『黄金時代』で来日した。素舞台の上は、ギター、カンテ(歌)、ダンサーのみ。黒いシャツとズボンというシンプルな出で立ちのガルバンは、立っているだけでも、すごい存在感! 美しい手の動き、ステップを踏む足さばき、全ての瞬間が絵になる驚異的な超絶技巧。体はもちろん、歯(!)まで叩いて、リズムを奏で続けるスタイルにもびっくりさせられた。3人が役割をシャッフルするカーテンコールもチャリング。圧倒的なパフォーマンスを見せつけられた。



Photo©加藤英弘

MUSIC

ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.35
ダニエル・シュー ピアノ・リサイタル
 10.28(日) 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

新進気鋭のピアニストが意欲的な曲に挑む当シリーズ。シューが第1曲目に選んだのはベートーヴェン《ピアノ・ソナタ第31番》という、最初からメインディッシュのような気合十分のプログラム。そのベートーヴェンでシューは大家の風格すら漂わせ、歌曲を思わせる抒情性でも魅せた。《シャコンヌ》はバッハの深遠さとブゾーニの華麗さが共存する演奏で、クライマックスでは神々しさを感じさせた。後半は幻想曲2作が中心となったプログラム。抑制を効かせたショパンに対して、シューがこの演奏会で最も弾きたいと願っていたシューマン《幻想曲》は詩情豊かな演奏。彼の今後のさらなる活躍が楽しみになったリサイタルだった。



Photo©加藤英弘

RAKUGO

彩の国さいたま寄席 四季彩亭
 平成29年度彩の国落語大賞受賞者の会
春風亭昇也
 10.27(土) 彩の国さいたま芸術劇場 小ホール

秋の四季彩亭は、平成29年度彩の国落語大賞を受賞した春風亭昇也が主役で二席を披露。二ツ目の受賞は林家たい平以来二人目という快挙だ。『時そば』はテンポよくスピード感溢れ、『お見立て』は偶然2016年のネタおろしも聴いていたが、すっかり自分のものにしたトリネタに育て上げ驚いた。随所に工夫が光るゲストたい平『猫の災難』には観客大満足。前座の春風亭昇咲『初天神』、新二ツ目の春風亭昇市『看板の一』と二人とも昇也の弟弟子で、一門のお祝い感もあって嬉しい。さらにトリネタの出囃子に昇也の師匠・春風亭昇太のデイビークロケットを選んだお囃子さんのシャレっ気にも、演芸好きの笑みがもれた。



Photo©加藤英弘

MUSIC

アレクセイ・ゲラシメス
パーカッション・リサイタル
 11.4(日) 彩の国さいたま芸術劇場 小ホール

プロ・アマともに打楽器奏者に人気の《アスヴェンチュラス》を作曲家本人が演奏するとあって会場は期待の熱気あふれ、特に若い聴衆が大勢来場。その《アスヴェンチュラス》は超絶テクニックで圧巻。その後もマリンバ、マラカス、ヴィブラフォンを時に踊るように演奏し、『ソウル・オブ・ボトル』ではペットボトルが多彩な音を鳴らす“楽器”に変身。テープとスティックのための《バッド・タッチ》ではなんと演奏せず、見事なパントマイムで会場を沸かせ、《ルボンB》は超難曲が簡単に思えるほど痛快な演奏だった。アフタートークでは《アスヴェンチュラス》作曲にまつわる話や、客席の質問に答えて奏法の奥義も披露してくれた。

大ホール 小ホール 音楽ホール 映像ホール 情報プラザ 彩の国さいたま芸術劇場 埼玉会館 埼玉会館

12月

	PLAY	DANCE	MUSIC	CINEMA/EVENT	
1 土				1 土	
2 日				2 日	
3 月	休館日(彩の国さいたま芸術劇場)			3 月	
4 火	休館日(彩の国さいたま芸術劇場)			4 火	
5 水	休館日(埼玉会館)			5 水	
6 木				6 木	
7 金				7 金	
8 土				8 土	
9 日				9 日	
10 月	休館日(彩の国さいたま芸術劇場)			10 月	
11 火	休館日(埼玉会館)			11 火	
12 水	休館日(埼玉会館)			12 水	
13 木				13 木	
14 金				14 金	
15 土				15 土	
16 日				16 日	
17 月	休館日(彩の国さいたま芸術劇場)			17 月	
18 火				18 火	
19 水				19 水	
20 木				20 木	
21 金				21 金	
22 土				22 土	
23 日				23 日	
24 月・休				24 月・休	
25 火				25 火	
26 水				26 水	
27 木				27 木	
28 金				28 金	
29 土	休館日(彩の国さいたま芸術劇場・埼玉会館)			29 土	
30 日	休館日(彩の国さいたま芸術劇場・埼玉会館)			30 日	
31 月	休館日(彩の国さいたま芸術劇場・埼玉会館)			31 月	

1月

1 火・祝	休館日(彩の国さいたま芸術劇場・埼玉会館)			1 火・祝	
2 水	休館日(彩の国さいたま芸術劇場・埼玉会館)			2 水	
3 木	休館日(彩の国さいたま芸術劇場・埼玉会館)			3 木	
4 金				4 金	
5 土				5 土	
6 日				6 日	
7 月				7 月	
8 火				8 火	
9 水				9 水	
10 木				10 木	
11 金				11 金	
12 土				12 土	
13 日				13 日	
14 月・祝				14 月・祝	
15 火	休館日(彩の国さいたま芸術劇場)			15 火	
16 水	休館日(埼玉会館)			16 水	
17 木				17 木	
18 金				18 金	
19 土	19 彩の国さいたま寄席 四季彩亭 柳亭市馬と新春若手落語会 小ホール 詳細はP.21	17:00		19 土	
20 日				20 日	
21 月				21 月	
22 火				22 火	
23 水				23 水	
24 木				24 木	
25 金				25 金	
26 土				26 土	
27 日				27 日	
28 月	休館日(彩の国さいたま芸術劇場)			28 月	
29 火				29 火	
30 水				30 水	
31 木				31 木	

2月

1 金				1 金	
2 土				2 土	
3 日				3 日	
4 月				4 月	
5 火				5 火	
6 水				6 水	
7 木				7 木	
8 金	8 彩の国シェイクスピア・シリーズ第34弾 『ヘンリー五世』 大ホール 詳細はP.4-5	18:30		8 金	
9 土		13:30		9 土	
10 日		13:30		10 日	
11 月・祝		13:30 / 18:30		11 月・祝	
12 火		休 演		12 火	
13 水		13:30 / 18:30		13 水	
14 木		13:30		14 木	
15 金		13:30		15 金	

大ホール 小ホール 音楽ホール 映像ホール 情報プラザ 彩の国さいたま芸術劇場 埼玉会館 埼玉会館

*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。

PLAY

販売中

彩の国さいたま寄席 四季彩亭

柳亭市馬と新春若手落語会

2019年1.19(土) 17:00 小ホール

〔出演〕柳亭市馬(ゲスト)、

春風亭百楽、林家たけ平、柳亭市楽

チケット(税込) 全席指定 一般3,000円

ゆうゆう割引(65歳以上・障がい者) 2,000円

メンバーズ2,700円

販売中

彩の国シェイクスピア・シリーズ 第34弾

『ヘンリー五世』

詳細はP.4-5

発売日 一般 2019年1.19(土) メンバーズ 1.12(土)

彩の国さいたま寄席 四季彩亭

古今亭志ん輔と精鋭落語家特選会

2019年4.27(土) 14:00 小ホール

〔出演〕古今亭志ん輔(ゲスト) ほか

チケット(税込) 全席指定 一般3,000円

ゆうゆう割引(65歳以上・障がい者) 2,000円

メンバーズ2,700円

DANCE

予定枚数終了 ※当日券販売予定

Opto

『optofile_touch』

12.8(土)・9(日)15:00 小ホール

〔演目〕※上演順未定

『The Other You』クリスタル・バウト(演出・振付)

『Recall』ヴァツラフ・クネシュ(演出・振付)

『NEP and BAT』(新作)小尻健太(演出・振付)／小出稚

子(作曲)

『media(仮)』(新作)湯浅永麻(演出・振付)

〔出演〕渡辺レイ、小尻健太、湯浅永麻、

アンソニー・ロムルホ、フィリップ・スタンニク、

大石将紀(サクソフォン奏者)

チケット(税込) 全席指定 一般 前売4,500円 ※当日券は+500円

U-25* (1公演10枚限定) 3,000円

〔主催〕Opto 〔共催〕公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団

販売中

埼玉県舞踊協会

『ダンスセッション2019』

詳細はP.9

販売中

子どもと大人のためのダンス

『日本昔ばなしのダンス』

詳細はP.10-11

CINEMA

彩の国シネマスタジオ

【全席自由・各回入替制・整理券制】

大人1,000円 学生500円〔入場時に学生証をご提示ください〕

*料金は当日現金支払いのみ

12.12(水)～16(日) 映像ホール

『モリのいる場所』

(2018年／日本／99分)

〔監督・脚本〕沖田修一

〔出演〕山崎 努、樹木希林、加瀬 亮、吉村界人、

光石 研、青木崇高、吹越 満、池谷のぶゑ ほか



©2017『モリのいる場所』製作委員会

12.25(火) 埼玉会館 小ホール

『ドリーム』

(2016年／アメリカ／127分)

〔監督〕セオドア・メルフイ

〔出演〕タラジ・P・ヘンソン、オクタヴィア・スペンサー、

ジャネール・モネイ、ケビン・コスナー、キルスティン・ダンスト、

ジム・パーソンズ、マハシャリ・アリ ほか



©2017 Twentieth Century Fox Film Corporation

2019年1.7(月)・8(火) 埼玉会館 小ホール

『追憶』

(1973年／アメリカ／118分)

〔監督〕シドニー・ポラック

〔出演〕バーブラ・ストライサンド、ロバート・レッドフォード、

ブラッドフォード・ディルマン、バトリック・オニール、

ロイス・チャイルズ ほか



©1973 RASTAR PRODUCTIONS, INC. ALL RIGHTS RESERVED.

2019年1.17(木)～21(月) 映像ホール

『あなたの旅立ち、綴ります』

(2016年／アメリカ／108分)

〔監督〕マーク・ベリント

〔出演〕シャーリー・マクレーン、アマンダ・セイフライド、

アン・ヘッシュ、トーマス・サドスキー、フィリップ・ベイカー・ホール、

トム・エヴェレット・スコット、アンジュエル・リー ほか



©2016 The Last Word, LLC. All Rights Reserved.

2019年2.6(水)～10(日) 映像ホール

『ローズの秘密の頁』

(2016年／アイルランド／108分)

〔監督・脚本〕ジム・シェリダン

〔出演〕ルーニー・マラー、ヴァネッサ・レッドグレイヴ、ジャック・レ

イナー、デヴィッド・ジェームス、エリック・バナ ほか



©2016 Secret Films Limited

MUSIC

販売中

埼玉会館ランチタイム・コンサート第37回

トルヴェール・クワルテット(サクソフォン四重奏)

with 小柳美奈子(ピアノ)

12.7(金) 12:10(終了予定13:00)

埼玉会館 大ホール

〔出演〕須川展也(ソプラノ・サクソフォン)、

彦坂真一郎(アルト・サクソフォン)、神保佳祐(テナー・サクソフォン)、

田中靖人(バリトン・サクソフォン)、小柳美奈子(ピアノ)

〔曲目〕J. S. バッハ(須川展也編曲)：G線上のアリア

いずみたく(石川亮太編曲)：見上げてごらん夜の星を

石川亮太：ナポリ! ナポリ! ナポリ! ほか

チケット(税込) 全席指定 1,000円

販売中

ピアノ・エトワール・シリーズVol.36

レミ・ジュニエ ピアノ・リサイタル

詳細はP.12-13

販売中

アリーナ・イブラギモヴァ&セドリック・ティベルギアン

デュオ・リサイタル

詳細はP.14-15

販売中

彩の国さいたま芸術劇場シリーズ企画

「次代へ伝えたい名曲」第14回

清水和音 ピアノ・リサイタル

詳細はP.16-17

販売中

バッハ・コレギウム・ジャパン

J. S. バッハ『マタイ受難曲』

2019年4.13(土) 15:00 音楽ホール

〔出演〕鈴木雅明(指揮)

キャロリン・サンブソン、松井亜希(ソプラノ)

ダミアン・ギヨン、クリント・ファン・デア・リンデ(アルト)

櫻田 亮(テノール：福音史家)

谷口洋介(テノール)

クリスティアン・イムラー、加来徹(バス)

チケット(税込) 一般 正面席9,000円 バルコニー席8,000円

U-25* (バルコニー席対象) 3,000円 メンバーズ 正面席8,100円

*関連レクチャー開催予定 詳細はP.23

発売日 一般 12.2(日) メンバーズ 12.1(土)

埼玉会館ランチタイム・コンサート第38回

東京交響楽団メンバーによる金管五重奏

2019年3.13(水) 12:10(終了予定13:00)

埼玉会館 大ホール

〔出演〕澤田真人、松山 萌(トランペット)、

上間喜之(ホルン)、大馬直人(トロンボーン)、

渡辺 功(チューバ)

〔曲目〕

J. クラーク：トランペット・ヴォランタリー(デンマーク王子の行進曲)

ミュージカル・モデル

A. メンケン：映画『アラジン』より(フレンド・ライク・ミー) ほか

チケット(税込) 全席指定 1,000円

次頁へ続く

MUSIC

発売日 一般 12.8(土)

彩の国バリアフリーコンサート

2019年 1.26(土) 14:30 小ホール

[出演者] 賛美音 (フルート 渡辺奈津美、ピアノ 牧田清美、パーカッション 荻原松美)、スティールパンバンド Pete (主宰 出口雅生)

チケット(税込)

全席指定 一般 1,000円 障がい者割引500円

[主催] 埼玉県障害者アートフェスティバル実行委員会

[共催] 公益財団法人埼玉芸術文化振興財団、埼玉県障害者交流センター (社会福祉法人埼玉県社会福祉事業団)

[公演の内容・鑑賞に関するお問合わせ]

埼玉県福祉部障害者福祉推進課 048-830-3312

発売日 [3公演セット券] 一般 2019年 1.13(日) メンバース 1.12(土)

発売日 [アンコールVol.8 1回券] 一般 2019年 2.9(土) メンバース 2.2(土)

2019年度ピアノ・エトワール・シリーズ 3公演セット券

アンコール! Vol.8 萩原麻未

Vol.17 ルーカス&アルトゥール・ユッセン

Vol.38 ペアトリーチェ・ラナ

音楽ホール

[日時・曲目]

[アンコール! Vol.8 萩原麻未]

2019年 6.16(日) 15:00

[Vol.37 ルーカス&アルトゥール・ユッセン]

2019年 11.17(日) 15:00

[Vol.38 ペアトリーチェ・ラナ]

2020年 3.7(土) 15:00

チケット(税込)

[3公演セット券]

一般・メンバース 正面席 9,000円

バルコニー席 7,500円 / U-25* (バルコニー席対象) 3,000円

【各回】

一般 正面席 3,500円 メンバース 正面席 3,200円

バルコニー席 2,500円 / U-25* (バルコニー席対象) 1,000円

発売日 [2公演セット券] [Vol.2・1回券]
一般 2019年 1.19(土) メンバース 1.12(土)2019年度大塚直哉レクチャー・コンサート
オルガンとチェンバロで聴き比べるバッハの“平均律”

音楽ホール

[Vol.2]「フーガ」の苦しみと喜び

2019年 7.7(日) 14:00

[出演] 大塚直哉 (ポジティブ・オルガン、チェンバロ、お話)、若松夏美 (バロック・ヴァイオリン)

[曲目] J. S. バッハ《平均律クラヴィーア曲集第1巻》より第11番から第17番、無伴奏ヴァイオリン・ソナタ第2番より

[Vol.3] “平均律 wohltemperiert”の謎

2020年 2.2(日) 14:00

[出演] 大塚直哉 (ポジティブ・オルガン、チェンバロ、お話)

[曲目] J. S. バッハ《平均律クラヴィーア曲集第1巻》より第18番から第24番

チケット(税込)

[2公演セット券] 全席指定 一般・メンバース 3,600円

[Vols.2-3] 各回 全席指定 一般・メンバース 2,000円

チケット購入方法

インターネット



埼玉県芸術文化振興財団

オンラインチケット

【PC・携帯共通】
http://www.ticket.ne.jp/saf/

メンバース 登録のご住所へ無料配送

一般 【クレジットカード決済】 ▶ コンビニ発券
または【コンビニ支払い】

※チケット代他に、店頭発券手数料(チケット1枚につき120円)が必要です。

電話予約

チケットセンター 0570-064-939

10:00～19:00 (彩の国さいたま芸術劇場休館日を除く)

※一部の携帯電話、PHS、IP 電話からは受付できません。

メンバース 登録のご住所へ無料配送

一般 【クレジットカード決済】 ▶ コンビニ発券
または【コンビニ支払い】※チケット代他に、店頭発券手数料(チケット1枚につき120円)が必要です。
※コンビニ支払い後にチケット配送も承りますが、チケット代ほかに配送料(配送1件につき400円)が必要です。

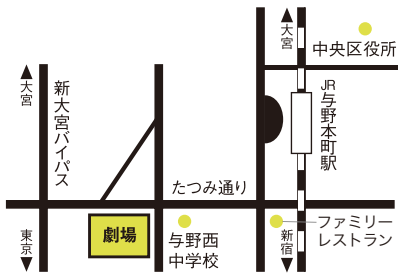
窓口販売

彩の国さいたま芸術劇場・埼玉会館窓口 (10:00～19:00)
で直接購入いただけます。電話予約したチケットの
引取もできます (メンバースは登録のご住所への配送となります)。
※休館日をお確かめの上、ご来場ください。

メンバース 【口座引落】

一般 【現金】または
【クレジットカード決済】その場で
チケットを
お渡しします。
※手数料は
かかりません。

彩の国さいたま芸術劇場

〒338-8506 埼玉県さいたま市中央区上峰 3-15-1
電話:048-858-5500(代) ファックス:048-858-5515

●電車でのアクセス

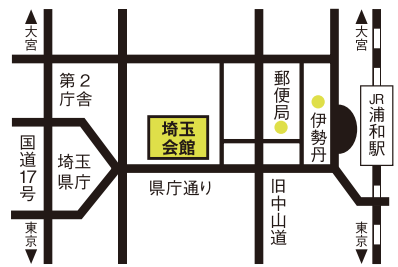
JR埼京線と野本町駅(西口)下車 徒歩7分

●バスでのアクセス

JR京浜東北線北浦和駅から西武バス大久保行き

「彩の国さいたま芸術劇場入口」下車 徒歩2分

埼玉会館

〒330-8518 埼玉県さいたま市浦和区高砂 3-1-4
電話:048-829-2471(代) ファックス:048-829-2477

●電車でのアクセス

JR宇都宮線・高崎線・京浜東北線・湘南新宿ライン
浦和駅(西口)下車 徒歩6分※駐車台数に限りがありますので、ご来場の際はなるべく公共
交通機関をご利用ください。

彩の国シェイクスピア・シリーズ第34弾

『ヘンリー五世』

スペシャルトークイベント開催 &
追加公演決定！

彩の国シェイクスピア・シリーズ2代目芸術監督・吉田鋼太郎による芸術監督就任後第2作『ヘンリー五世』が2月8日に開幕いたします。公演に先駆け、演出・出演の吉田鋼太郎と主人公・英国王ヘンリー五世を演じる松坂桃李さんのトークイベントの開催が決定しました。稽古、本番、それぞれの思い——舞台への意気込みを語る言葉には、知られざる意外な一面!? かのぞくかもしれません。開幕に向けて白熱する稽古場の様子など、臨場感溢れるトークにご期待ください。そして前売り好評につき追加公演も決定、この機会をお見逃しなく！

【参加者募集】

彩の国シェイクスピア・シリーズ第34弾『ヘンリー五世』

スペシャルトークイベント

吉田鋼太郎 (彩の国シェイクスピア・シリーズ芸術監督) ×

松坂桃李 (主人公「ヘンリー五世」役)

[日時] 2019年1月19日(土) 12:00開演 (13:00終演予定)

[会場] 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

[定員] 776名 (入場無料・要事前申込・全席指定)

[申込方法] はがきに郵便番号・住所・氏名・フリガナ・会員番号 (SAFメンバースの方のみ)・希望人数 (2名様まで) をご記入の上、ご郵送ください。

※応募者多数の場合は抽選となります (入場券の発送をもって抽選結果の発表に代えさせていただきます)。

※SAFメンバース優先枠を設けています。 ※ご応募はお1人様1通まで (重複応募は無効)。

[申込締切] 12月21日(金) 必着

[申込先] 〒338-8506 埼玉県さいたま市中央区上峰 3-15-1

(公財) 埼玉県芸術文化振興財団「1/19 イベント入場募集」係

[お問合わせ] 彩の国さいたま芸術劇場 0570-064-939 (休館日を除く 10:00-19:00)

【追加公演】

追加公演チケット発売日 一般 12.16(日) メンバース 12.15(土)

彩の国シェイクスピア・シリーズ 第34弾

『ヘンリー五世』追加公演

2019年 2.11(月・祝) 18:30 大ホール

チケット(税込) 一般 S席 9,500円 A席 7,500円 B席 5,500円

U-25* (B席対象) 2,000円 / メンバース S席 8,600円 A席 6,800円 B席 5,000円

*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。

チケット取扱い: SAF チケットセンター

【参加者募集】

バッハ・コレギウム・ジャパン

J. S. バッハ《マタイ受難曲》公演関連企画

鈴木雅明による作品解説レクチャー

毎年恒例のバッハ・コレギウム・ジャパン (BCJ) 彩の国公演、2019年4月《マタイ受難曲》の公演に先立ち、関連企画としてBCJ 音楽監督の鈴木雅明による作品解説レクチャーを開催いたします。コンサートをより深く楽しむための貴重な機会となることでしょう。本公演のチケットをお持ちの方は無料でご参加いただけます。定員に達し次第受付終了となりますので、是非お早めにお申込みください。

[日時] 2019年4月6日(土) 13:00開講

[会場] 彩の国さいたま芸術劇場 大練習室

[参加費] 1,000円 ※2019年4月13日《マタイ受難曲》公演(詳細はP21)のチケットをお持ちの方は無料

[申込方法] メールまたは往復はがき(往信面) に下記事項を記入のうえお申し込みください。

①氏名(ふりがな) ②郵便番号・住所 ③電話番号 ④メールアドレス

⑤公演チケット購入者は座席番号

MAIL: music@saf.or.jp 件名に「BCJ 4/6レクチャー申込み」とご記載ください。

郵送: 〒338-8506 埼玉県さいたま市中央区上峰 3-15-1

彩の国さいたま芸術劇場「BCJ 4/6レクチャー」係宛

※定員(100名)に達した場合には、お申し込み受付を締め切ります。

[お問合わせ] 彩の国さいたま芸術劇場 音楽担当 048-858-5506

年末年始の休業について

彩の国さいたま芸術劇場・埼玉会館の施設利用及びチケット販売について下記の通り休業いたします。何卒ご了承くださいませようお願い申し上げます。

〈施設のスケジュール〉

◎彩の国さいたま芸術劇場・埼玉会館

12月28日(金) 通常営業 / 12月29日(土)～1月3日(木) 休館 / 1月4日(金) 通常営業

〈チケット販売〉

◎彩の国さいたま芸術劇場(窓口販売・電話受付)・埼玉会館(窓口受付)

12月28日(金) 10:00～19:00 / 12月29日(土)～1月3日(木) 休館のため休業
/ 1月4日(金) 10:00～19:00

◎インターネット販売【SAFオンラインチケット】24時間ご利用になれます

※12月27日(木)以降のお申し込みにおいて、お渡し方法【配送】でのご予約チケットは、1月4日(金)の発送となります。
※メンバース事務局(TEL:048-858-5507)につきましても、12月29日(土)～1月3日(木)は休業といたしますので、1月4日(金)10時以降にお問い合わせください。

サポーター会員

(公財) 埼玉県芸術文化振興財団は、演劇、ダンス、音楽を中心に、この劇場でしか見られない最高の作品を提供できるよう、作品づくりに努めています。

こうした財団の活動にご理解、ご支援をいただいているのがサポーター会員の皆様方です。(2018.11.15現在／一部未掲載)

㈱与野フードセンター／㈱亀屋／㈱松本商会／㈱香山壽夫建築研究所／埼玉新聞社／埼玉りそな銀行／㈱パシフィックアートセンター
㈱アサヒコミュニケーションズ／FM NACK5／カヤバ システム マシナリー㈱／㈱タムロン／㈱十萬石ふくさや／森平舞台機構㈱
東芝エルティエエンジニアリング㈱／埼玉トヨタ自動車㈱／武蔵野銀行／浦和ロイヤルバインズホテル／アルピーノ村／国際照明㈱／埼玉スバル
㈱佐伯紙工所／㈱太陽商工／㈱しまむら／不動開発㈱／ビストロ やま／埼玉縣信用金庫／㈱栗原運輸／彩の国 S P グループ／㈱ブラネッツ／㈱デサン
セントラル自動車技研㈱／丸美屋食品工業㈱／ポラスグループ／ひがし歯科／埼玉トヨペット㈱／公認会計士 宮原敏夫事務所／㈱埼玉交通
サイデン化学㈱／アイル・コーポレーション㈱／旭ビル管理㈱／ヤマハサウンドシステム㈱／㈱エヌテックサービス／㈱クリーン工房
㈱つばめタクシー／㈱サンワックス／㈱綜合舞台／(一財) さいたま住宅検査センター／㈱国大グループホールディングス／オーガスアリーナ㈱
イープラス／六三四堂印刷㈱／(医) 櫻会 林整形外科／埼玉県整形外科医会／(医) 山粋会 山崎整形外科／サンケイリビング新聞社／㈱三和広告社
ショッパー／㈱松尾楽器商会／JA 埼玉県中央会／日本大学芸術学部／㈱川口自動車交通／㈱ホンダカーズ埼玉／ファミリーマートあすまや
㈱杉田電機／丸茂電機㈱／太平ビルサービス㈱さいたま支店／㈱片岡食品／㈱協栄／㈱ヨコハマタイヤジャパン／NTT 東日本 埼玉事業部
㈱平和自動車／光陽オリエントジャパン㈱／さくら Music Office／クワバラ・パンぶキン／東和アークス㈱／テレビ埼玉／日本ビストンリング㈱
金井大道具㈱／国立大学法人 埼玉大学／㈱七越製菓／ビーンズ与野本町／㈱コマーム／㈱原一探偵事務所／川口信用金庫／青木信用金庫
㈱和幸楽器／大栄不動産㈱／相川宗一／㈱ハイデイ日高／浦和実業学園中学・高等学校／三井隆司／大和証券㈱／AGS㈱／ウォータースタンド㈱
㈱ワイイーシーソリューションズ／白神久吉／医療法人青木会／むさし証券／三菱UFJモルガン・スタンレー証券㈱／㈱シルバーデントラルラボラトリー
㈱エスポイント／藤信地所㈱／津田工業㈱／㈱積田電業社／ボートピア岡部・栗橋／中央税務会計事務所／㈱東京コーン紙製作所
トヨタカローラ埼玉㈱／放送大学埼玉学習センター／GARO DAYHAPPY／㈱有村紙工／(医) たかだクリニック／SMBC 日興証券㈱／㈱アステック
㈱加藤工業／㈱ジェイコムさいたま

お問合わせ (公財) 埼玉県芸術文化振興財団 サポーター会員担当 TEL.048-858-5507



はやしや・ひこいち

1989年、林家木久蔵（現・木久扇）師匠へ入門。2000年に若手落語家の登竜門と呼ばれる『NHK新人演芸大賞落語部門』で大賞を受賞。2002年に真打昇進、全国各地で独演会を展開中。アウトドア派として国内外の山や川を制覇中。

芸人は ピンチもシャレに

文と写真 ● 林家彦いち

今回は一歩外へ“はみだしちゃった”おはなし。

寄席は上席（1日から10日）、中席（毎月11日から20日）、下席（毎月21日から30日）で出演者が変わるが、10日間は同じ顔付け。が、「代演」というものが存在している。先に予定に入った落語会や地方のお仕事などを優先しつつ調整する。世知辛い世の中では許されないかもしれないが、独特の時間が流れる落語界の中ではお許しをいただいている!? ようだ。

ある日の池袋演芸場。三味線漫談の林家あずみさんの代演が、昨年末大活躍を襲名した立花家橘之助師匠。代演の連絡がきちんと現場に通ってなくて、橘之助師のめくり（演者の名前が書かれた札）を用意していないことが直前に判明。プログラムもあずみさんのまま。芸人は名前が看板なのだ。それを間違えたということである。緊張感漂う楽屋。この日は大入り満員で、盛り上がるお客さん。僕は出番を終えたばかりだったこともあり「姉さん、ここは一つ『あずみでーす！』って出ちゃうってどうでしょう」と半分冗談だが、もう半分は本気で言ってみた。今日のお客さんだったら盛り上がるに違いないと思ったからだ。「そうね……出てみようかしら」。なんと橘之助姉さんがのってきた。



そして楽屋で即興の物真似が始まった。「なんだか似ているぞ！」楽屋も盛り上がる。姉さんが「めくりは、あずみちゃんのままだといて」。日々のルーティンから外れると楽屋の温度も上がる。

あずみさんの出囃子が鳴る。顔を隠しながら出て、ぱっと顔を出し座布団に座り「あずみでーす!! ▽○※!!」

もお、割れんばかりの拍手と笑い声。同じ三味線漫談の大先輩が、後輩の真似をしているのだ。そして「え～代演でしてねえ」という絶妙のタイミングで前座さんが「橘之助」のめくりを出す。再び拍手。にっこり笑って袖の僕に指でOKサイン。「あのねえ、彦いっちゃんがやれっというからさあ。もお、普段こういうことしないんですけどねえ」とぼやいて三味線を弾き始め最後にはきっちり「たぬき」※で高座をおりた。

この一体感は楽屋もお客さん也得した日だったなあ。

※たぬき：先代立花家橘之助師が得意とした浮世節で、当代橘之助師も手掛けている



演劇担当 @Play_SAF

舞踊担当 @Dance_SAF

音楽担当 @Music_SAF



Facebook

彩の国さいたま芸術劇場 @saitamaartstheater

埼玉会館 @saitamakaikan



Instagram

埼玉会館 @saitamakaikan

www.saf.or.jp

埼玉アーツシアター通信 第78号（12月～2019年1月）

平成30年12月1日発行（隔月1日発行）

発行人：竹内文則

発行：公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団

〒338-8506 さいたま市中央区上峰3-15-1 TEL.048-858-5500